

◆ 今週のコメント

- ・ パラチフスの報告が1例あります。平成24年第52週(12月24日～12月30日)に報告のあった再燃事例です。推定感染地域は国外(インド)で、推定感染経路は経口となっています。
感染症法に基づく届出の対象となった平成11年(4月)以降、平成14年3例、平成16年3例、平成17年1例、平成20年3例、平成22年2例、平成24年1例の報告があり、本市の累積報告数は本例を含め14例となっています。推定感染地域はインド5例、インドネシア4例、ネパール1例、バングラデシュ1例、ミャンマー1例、国内1例、不明1例で、推定感染経路は経口が12例、不明が2例となっています。
- ・ レジオネラ症(肺炎型)の報告が、1例(男性、50歳代)あります。本年の累積報告数は2例です。症状は発熱・咳嗽・肺炎です。推定感染地域は国外(イタリア)で、推定感染経路は不明です。

◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は15.03(1,007例)で、第5週(2月11日～2月17日)をピークに2週連続減少しているものの、依然として注意報レベルの「10」を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 三類:パラチフス 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	15.03	1007
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.51	267
	② 水痘	1.12	46
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.02	42
	④ RSウイルス感染症	0.27	11
	⑤ 突発性発しん	0.17	7
眼科	流行性角結膜炎	0.10	1

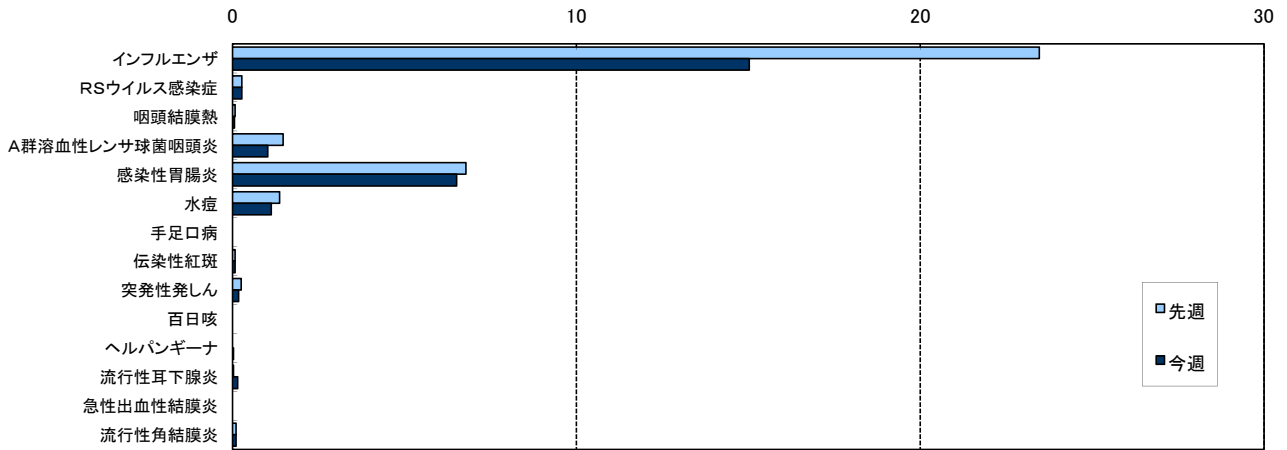
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成25年2月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

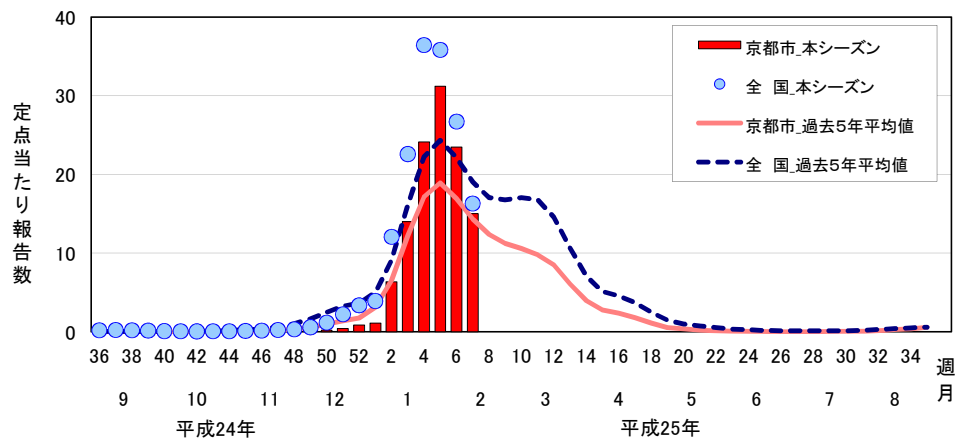
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第7週)と先週(第6週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

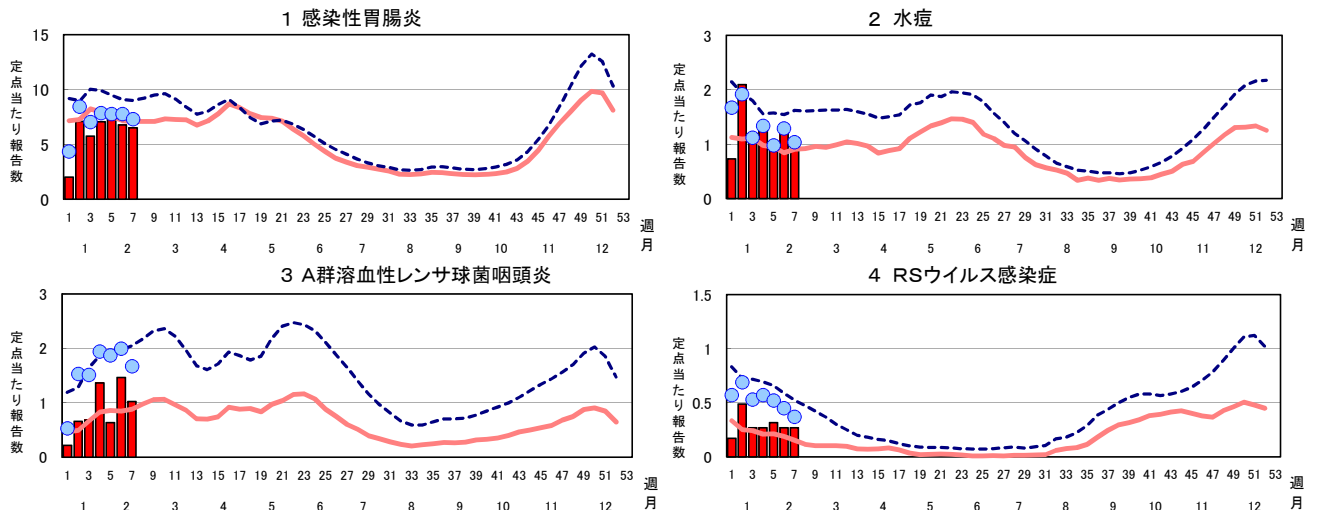
週	報告数(例)
第3週	939
第4週	1,616
第5週	2,092
第6週	1,572
第7週	1,007
累積報告数 (第36週以降)	7,838



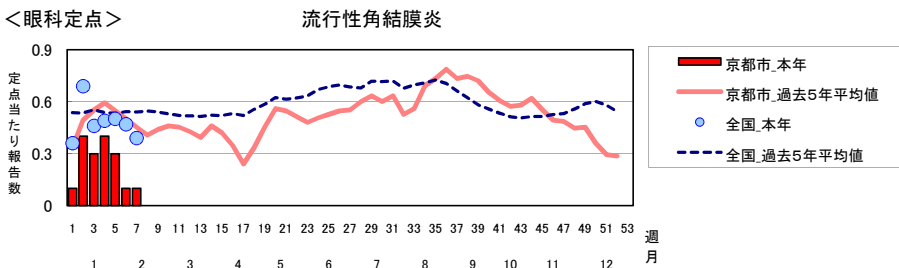
*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第7週(2月11日～2月17日)トピックス: <インフルエンザ>

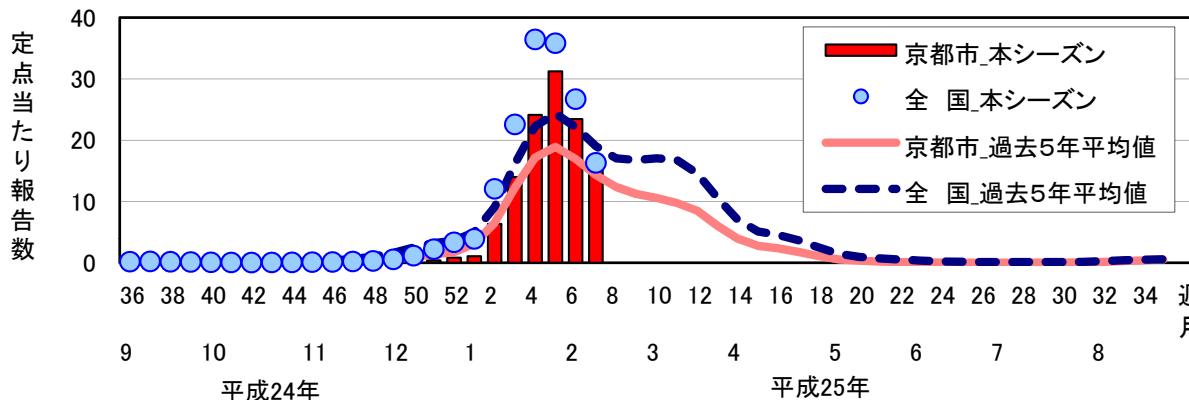
インフルエンザの定点当たり報告数は15.03(1,007例)で、第5週(2月11日～2月17日)をピークに2週連続減少しているものの、依然として注意報レベルの「10」を上回っています。

年齢群別では5～9歳が22.1%と最も多く、次いで0～4歳18.5%、30～39歳12.0%の順となっています。

京都市衛生環境研究所では、今シーズン(平成24年9月～)に、A(H3)型を19例、AH1pdm09を2例、B型を2例、分離・検出しており、A(H3)型が82.6%を占めています。

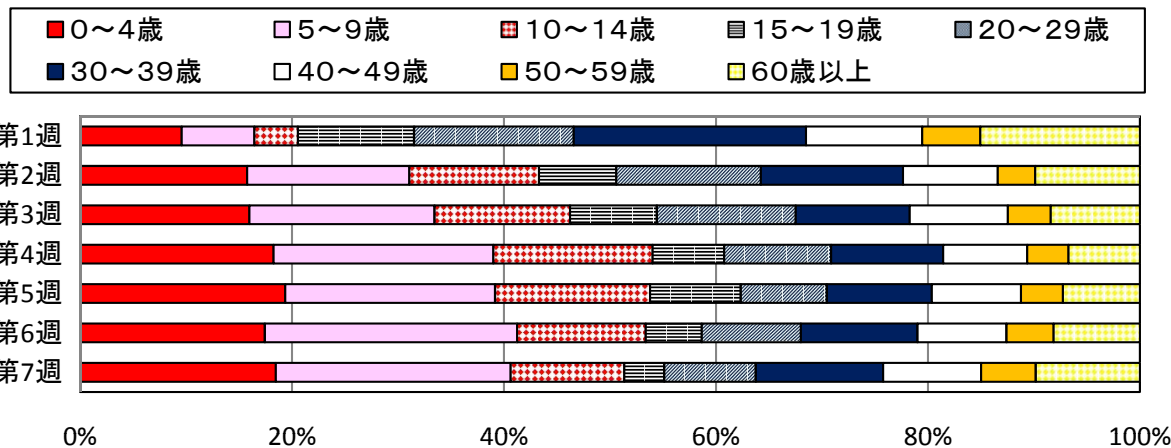
なお、全国のインフルエンザウイルス分離・検出報告数は、A(H3)型が主流でしたが、第2週(1月7日～1月13日)以降、B型の割合が増えています(平成25年2月22日現在)。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



*平成21年/22年シーズンは、インフルエンザ(H1N1)2009の影響で、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

年齢群別定点当たり報告割合の推移



全国のインフルエンザウイルス分離・検出割合

